第一一七回　幻住庵俳句コンクール

審査結果　令和五年十一月　幻住庵保勝会

選者　滋賀　恵美子（俳人協会）

特選　帰省子のもち食う力寝る力　栗東市中澤二　葛城　巌

【評】帰省子に未来を期待する気持ちを「もち食う力」「寝る力」と表現されています。老えば、食は減り、寝られないと悩むことがあります。食べられる幸せ、寝られる幸せを称えたすばらしい俳句です。

入選　今少し生きてゆきます秋深し　大津市柳川一　丸岡　正男

入選　足元の一枚紅葉杖の上　大津市栄町　竹山　進

入選　下校時の列を乱して赤とんぼ　大津市柳川一　圓井　公子

佳作　故郷に思ひを馳せて茄子漬　大津市美崎町　村山　達郎

佳作　茅葺の屋根も苔むし秋浅し　高槻市栄町　猪飼美代子

佳作　あちこちに子等の区つるし秋始め　高槻市栄町　猪飼美代子

佳作　天高し肩書きの無い人となり　宇治市小倉町　伊豆　益一

佳作　電車待つ一直線に曼殊沙華　大津市光が丘町　大槻　幸恵

選者　小林　紀夫（大津市俳句連盟）

特選　姫君の胸に手を入る菊師かな　草津市若草三　井上　次雄

【評】菊人形展では会期の途中でも菊師が手直ししているのを見かけることがある。大河ドラマの姫君がその人形の胸のあたりに手を入れているのを見て一瞬ドキッとしたのであろう。男目線ならではの句である。

入選　帰省子のもち食う力寝る力　栗東市中澤二　葛城　巌

入選　大津絵の鬼を畳むや秋扇　大津市里六　宮崎　正子

入選　バギーから覗く足裏秋日和　京都市伏見区　本西　一代

佳作　天高し肩書きの無い人となり　宇治市小倉町　伊豆　益一

佳作　利休下駄緒ずれがまんの阿波おどり　大津市稲津三　加集　正尊

佳作　新聞の切抜たまる残暑かな　大津市柳川一　圓井　公子

佳作　ひぐらしや父母の暮より日本海　大津市里六　宮崎　正子

佳作　あかとんぼ交番いつも巡回中　大津市中央一　増田　天志

選者　山田　鳴子（日本伝統俳句協会）

特選　姫君の胸に手を入る菊師かな　草津市若草三　井上　次雄

【評】中七まで読んでドキッ。下五でやっとああ菊人形かと判る。客が見ている時に菊師が居るのは珍しいと思うが、花の状態より手直しをする。お姫様は特に色鮮やかな衣装なので度々菊師の出番となるのであろう。

入選　獣害の棚の中なる村の秋　高槻市高垣町　四方　よね子

入選　楚々と立つクルス燈籠草ひばり　高槻市高垣町　四方　よね子

入選　子等の句が青葉に揺れる幻住庵　高槻市高垣町　山村由紀子

佳作　法師蝉真っ中の幻住庵　高槻市栄町　猪飼美代子

佳作　名月を仰ぐ宇宙に小さき吾　摂津市南千里　河野　善江

佳作　天高し肩書きの無い人となり　宇治市小倉町　伊豆　益一

佳作　下校時の列を乱して赤とんぼ　大津市柳川一　圓井　公子

佳作　蹲に招き入れたる今日の月　大津市栄町　森本　和子

撰者　志村　宣子（現代俳句協会）

特選　掛け軸は芭蕉と曾良や秋めけり　高槻市桜ケ丘北町　伊地知陽子

【評】曾良は芭蕉になくては成らない縁の下の力持ち。何処にどんな名所があるか由来も詳しく旅の付き人となった。歴史や国学にも嗜みがあり数ある弟子の中から曾良を選んだ。秋めけりの季語が旅立ちに相応しい。

入選　奉燈の碑かしぎつくつくし　高槻市高垣町　四方　よね子

入選　コスモスや花より草の匂ひして　大津市柳川一　圓井　公子

入選　子等の句が青葉に揺れる幻住庵　高槻市高垣町　山村由紀子

佳作　いが栗や父のげんこつあいたたた　守山市大林町　市川すがの

佳作　廃村は水澄むダムの底にあり　草津市若草三　井上　次雄

佳作　あかとんぼ交番いつも巡回中　大津市中央一　増田　天志

佳作　木の実入れドレミの音のランドセル　大津市別保二　田中　文子

佳作　うろこ雲琵琶湖の空を被いけり　大津市秋葉台三　村田　陽子

撰者　馬場民代（幻住庵保勝会）

特撰　原子炉の黙する上を鳥渡る　草津市若草三　井上　次雄

【評】実は昔、私も似た句を造った。それは放射線と渡る白鳥、の取り合わせだったが、句会では堅い言葉の使役に賛否諤々。

が今回、投句に見え躊躇なく選んだ。無為なる自然と有為るなる人工物に齟齬は無しや、思惟膨らむ句。（原文のまま）

入選　マスク生活心も隔て秋思かな
摂津市南千里　河野　善江

入選　輪の中も外の瞳もおどりけり
大津市里六　宮崎　正子

入選　こだま来て吊り橋揺るる鰯雲
大津市別保二　田中　文子